

國學院大學學術情報リポジトリ

日本語学習の動機付け：
エジプト人学習者を対象とした研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学日本語教育研究会 公開日: 2024-11-20 キーワード (Ja): エジプト, ASU, 動機付け, 公用言語, 日本語学, 日本語学習者 キーワード (En): 作成者: エルアルフィー, サルマ カーレド アブドエラジズ ターハ メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001122

日本語学習の動機付け

—エジプト人学習者を対象とした研究—

サルマ カーレド アブドエラジズ ターハ エルアルフィー

【キーワード】 エジプト ASU¹ 動機付け 公用言語 日本語学 日本語学習者

1. アラビア語公用言語の国々における日本語教育の現状

国際交流基金は3年おきに「海外日本語教育機関調査」を実施している。アラビア語公用語の国々における日本語教育現状について、最新版の2021年度の調査結果によると、アラビア語公用語の国々の中のモーリタニア、ソマリア、コモロ、パレスチナについてのデータがない。これらの地域において日本語教育が行われていないからではないかと考える。

アラビア語公用語の国々の中で、エジプトにおける日本語学習者数は3,514人で、一番人数が多い国である。2018年度の調査結果によると、エジプトでの日本語学習者数は1602人であって、比べると、日本語学習者数が非常に増加していることが理解できる。これを踏まえると、日本語教育の大切さはエジプトのみならず、アラビア語公用語の国々にも非常に重要であることが言える。調査結果のデータをもとに作成したのが、以下の図1・図2のグラフである。

カイロにあるASU 言語学部日本語学科の学習者の日本語学習の動機付け

Gardner and Lambert(1972)によると第二言語を学習する動機付けには「統合的動機付け」と「道具的動機付け」の2つがある。「統合的動機付け」とは「第二言語社会に同化・統合しようとする態度」であり、「道具的動機付け」とは「就職や経済的成功などの実利目的を達成しようとする態度」である。

ASU 言語学部日本語学科の日本語学習者がどのような目的で日本語を学習したのかを明らかにするためにアンケート調査を行った。

¹ ASU：エジプトにあるアインシャムス大学 (Ain Shams University)

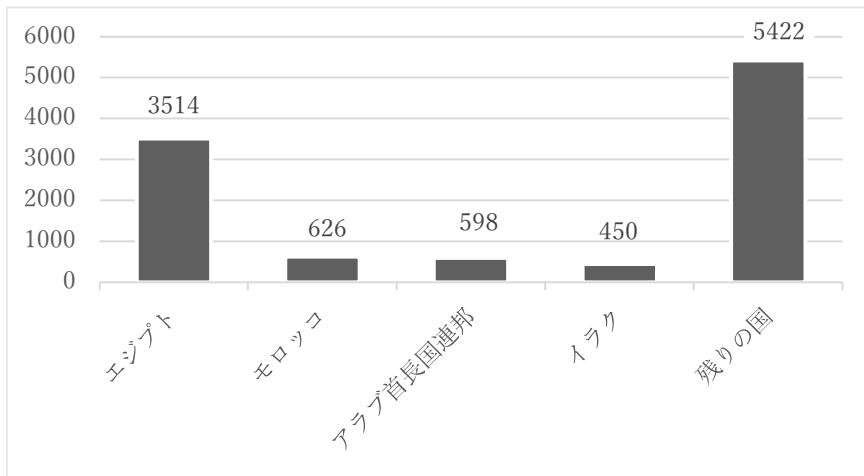


図1 アラブの日本語学習者数

2. 先行研究

岸(2019)は日本語学習者の日本語を学習する動機付けを明らかにするために以下のような調査を行っている。

調査対象者

調査対象者はエジプトの国立大学 ASU 言語学部日本語学科に所属する1年生から4年生までの学生67名である。

調査内容

日本語学科の学生は日本語の学習を始めることになった動機がわかるように、「どうして日本語学科に入ったのか」という質問を主にしたアンケートを行っている。

調査結果

表1 調査結果

選択肢	合計
高校生のとき英語の成績がよかったから	63人
日本のアニメ、マンガに興味があったから	37人
日本の伝統文化に興味があったから	55人
日本へ行ってみたかったから	69人
日本語学科は留学するチャンスがあると聞いたから	62人
エジプトにある日本の会社に入りたかったから	48人
日本にある日本の会社に入りたかったから	49人
日本人の知人がいたから	5人
家族に勧められたから	31人
知人に勧められたから	13人
日本語自体に興味があったから	53人
日本人に興味があったから	53人

何でもいから英語以外の外国語を勉強したかったから	55人
その他	11人

海外の日本語学習者はアニメ、マンガがきっかけで日本語を学習し始めるとよく言われているが、今回の調査では ASU の学生にはそのような動機づけは低かった。もちろん、日本のアニメはエジプトでも人気があるが、「子どものときに見たが今は見ない」という声がよく聞かれる。「日本へ行ってみたかったから」という動機が本調査では一番多い。これはエジプトから日本までは直線距離でも 9,600km あり、またイスラムの国と仏教の国といった精神的にも物理的にも遠い国に、日本語を学習すれば行くチャンスができるかもしれないと考えたのであろう。

以上のデータは 3 年前のものなので、これを踏まえて再検討した。今回は、対象大学・学部は同じであるが、対象者を卒業生とする。さらに、動機づけのほかに、卒業後どのような仕事をしたのが分かるように、質問を付け加えた。

3. アンケート調査

3.1 アンケートの対象と方法

オンラインのグーグルフォームを使用して行った。本調査の目的は日本語を学習した動機付けを明らかにすることと、日本語学科を卒業後、日本語を活用しようとしたかどうかを明らかにすることである。対象者は ASU 言語学部日本語学科の卒業生 223 名で、回答人数は 35 人である。調査言語はアラビア語である。

表 2 解答者の回答数及び卒業年

卒業年	2008年	2010年	2014年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	記入ミス	合計
回答人数	1人	1人	1人	4人	5人	4人	7人	5人	1人	4人	1人	1人	35人
卒業人数	19人	21人	4人	22人	14人	20人	21人	27人	25人	20人	30人		223人
回答人数の率	5.2%	4.7%	25%	18.1%	35.7%	20%	33.3%	18.5%	4%	20%	3.3%		15.6%

3.2 アンケート項目

アンケートの質問は大きく分けて三つに分かれている。

1. 卒業後について職業と日本語使用環境について
2. 日本語学習のきっかけについて
3. 回答者の属性について

3.3 アンケート内容

アンケート言語がアラビア語であるので、各問の下にその日本語訳を追加した。

<主な質問>

1 مجال العمل بعد التخرج (إذا وجد)

翻訳：問1 卒業後、どんな仕事をしたのか。(あれば)

選択可能：(複数選択可能)

1. لم اعمل بعد التخرج

翻訳：卒業後は働いていない

2. العمل في مجال تدريس اللغة اليابانية

翻訳：日本語教育の分野で働いている

3. العمل باللغة اليابانية

翻訳：日本語を使用し、仕事をしている

4. العمل في مجال دون استخدام اللغة اليابانية

翻訳：日本語を使用せずに、仕事をしている

2 سبب دراسة اللغة اليابانية

翻訳：問2 日本語を学習したきっかけは何か。

選択可能：(複数選択可能)

1. كان لدي فضول لدراسة الكانجي

翻訳：漢字に関心があったから

2. لدي فضول للتعرف علي قواعد اللغة

翻訳：日本語の文法に関心があったから

3. احببت صوت اللغة اليابانية

翻訳：日本語の発音に関心があったから

4. لان اللغة اليابانية مختلفة عن العربية كثيرا فأتارت اهتمامي

翻訳：日本語がアラビア語と違うので関心があったから

.5 أحب الانمي

翻訳：アニメが好きだから

.6 أحب دراسة اللغات بشكل عام

翻訳：言語全般の学習が好きだから

.7 لان قسم اللغة اليابانية بالكلية من أفضل الاقسام من حيث الاهتمام به

翻訳：学部では日本語学科が一番人気がある学科だから

.8 اريد السفر لليابان

翻訳：日本に行きたいから

.9 مجموع الثانوية العامة واللغات كن مرتفع

翻訳：高校の成績・言語の成績が良かったから

.10 غير ذلك

翻訳：その他

<回答者の属性についての質問>

النوع 1

翻訳：問1 性別

.1 نكر

翻訳：男性

.2 انثى

翻訳：女性

2 هل اكملت دراسات عليا؟

翻訳：問2 修士・博士を取ったかどうか。

.1 نعم

翻訳：はい

.2 لا

翻訳：いいえ

4. 調査結果の集計と分析

4.1 調査対象者の属性の集計と分析

アンケートの回答者は2008年～2023年に卒業した35人である。2008年から2023年までの卒業人数が223人であるので、回答した卒業生はそのうちの15.6%である。33人が女性で、2人が

男性である。7人が修士・博士課程に進学したのに対して、28人が進学していない。

4.2 問1の集計と分析

回答者の18人が卒業後、日本語を使用して会社で仕事をしている。そのうち、9人が日本語教育分野で働き、12人が日本語を使用せずに会社で働いている。また、1人が卒業後、働いていない。したがって、社会人になって日本語を活用したのは27人で、日本語を活用していない日本語学科の卒業生が7人²である。

4.3 問2の集計と分析

一番多かった回答は「学部の中では日本語学科が一番人気がある学科だから」で、選んだのは回答者の23人で、次は「言語全般の学習が好きだから」が14人である。そして「高校の成績・言語の成績が高かったから」は3番目で、13人である。その次は「日本語の発音に関心があったから」で、回答の割合は8人である。「その他」を選んだのは1人で、「そのとき、関心があった」と記入している。

そして、「日本語がアラビア語と異なるので関心がありました」で、その割合は6人である。非常に少なかったのは「日本語の文法に関心があったから」で、二人しか選んでいない。また、「漢字に関心があったから」という選択肢は一人も選んでいない。

4.4 性別・きかけの分析

男性の回答者が二人しかいないが、性別毎に、日本語を勉強したきっかけを分析したところ、男性は「日本に行きたいから」「日本語がアラビア語と異なるので関心があったから」「高校の成績・言語の成績が良かったから」という回答のみである。女性の回答の中で一番多いのは「高校の成績・言語の成績が良かったから」で、その次は「言語全般の学習が好きだから」である。

女性の複数回答を考察すると「日本に行きたいから」が5名いる。また、「日本語の文法に関心があったから」を選んだのは2人で、「日本語の発音に関心があったから」を選んだのは8人で、「日本語がアラビア語と違うので関心があったから」を選んだのは5人である。つまり、言語学としての日本語に興味があるからが15人いる。言語学全般に興味があるという回

² この質問は複数選択可能な質問なので、「日本語を使用して仕事をした」と「日本語を使用せずに仕事をしている」両方を選択した回答者がいる。

1人1人の回答を検討したところ、以下のことが明らかになった。

- 27人が日本語を使用して仕事をした。
- 7人が日本語を使用せずに仕事をした。
- 1人が卒業後は働かなかった。

答を加えると 25 人になり、「日本語学科が一番人気があったから」という回答の 15 人より多くなる。

5. まとめ

以上からわかるのは、日本語学習者の半分以上が卒業後日本語に関する仕事をし、日本語を学習した理由は日本語そのものの学習希望があったからではなく、学部では本学科が一番人気があることや言語学習が好きだからである。さらに、日本に行きたい、日本の文化が好きなどの理由もある。岸 (2019) の調査結果と比べると、日本語を学習する動機付けに多少変化がある。岸 (2019) で一番多かったのは「日本に行きたいから」であるが、今回の調査結果によると、一番高かったのは「学部では日本語学科が一番人気がある学科だから」である。

日本語学習者に日本語学科が人気の理由は、日本語の音声や文法といった日本語の特徴に言語学としての興味があるから、アラビア語とは全く異なる言語体系であるから、日本に行ってみたいからなどの理由が考えられる。それ以外の理由としては日本語学科の学生の数がほかの学科に比べて少ないので、卒業すると就職の機会が多くなり、収入も高いということが考えられる。

学習のきっかけや動機としては一番の動機ではないが、日本語に対する言語学的興味や日本に行ってみたいという理由があり、Gardner and Lambert (1972) の二つの動機付けのような単純な二分類には分類できず、複数の動機付けが複雑に絡み合っているのではないかと思われる。

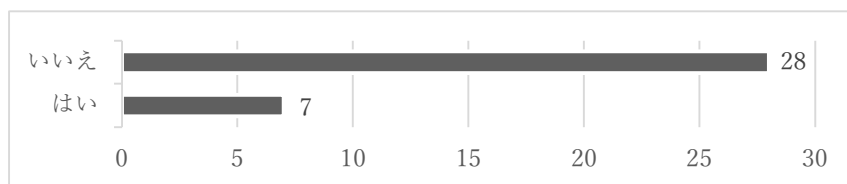


図4 修士・博士を取得したか否か

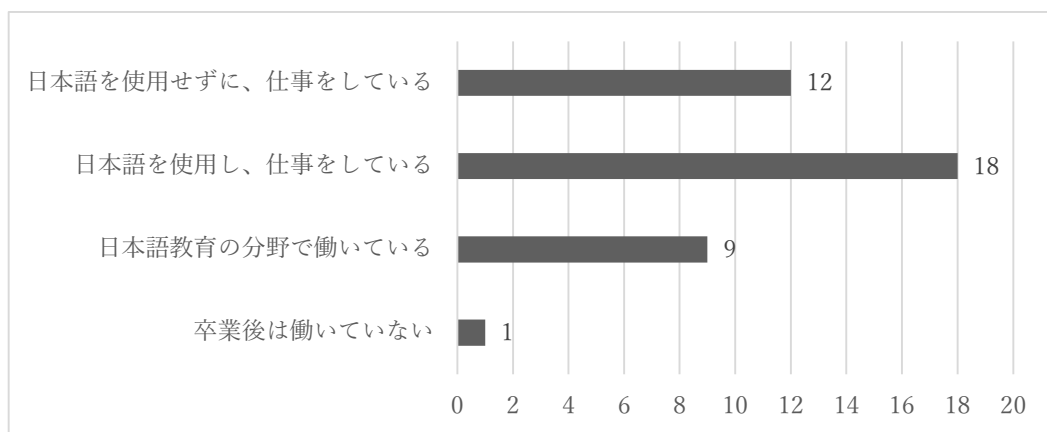


図5 卒業後どのような仕事をしたか

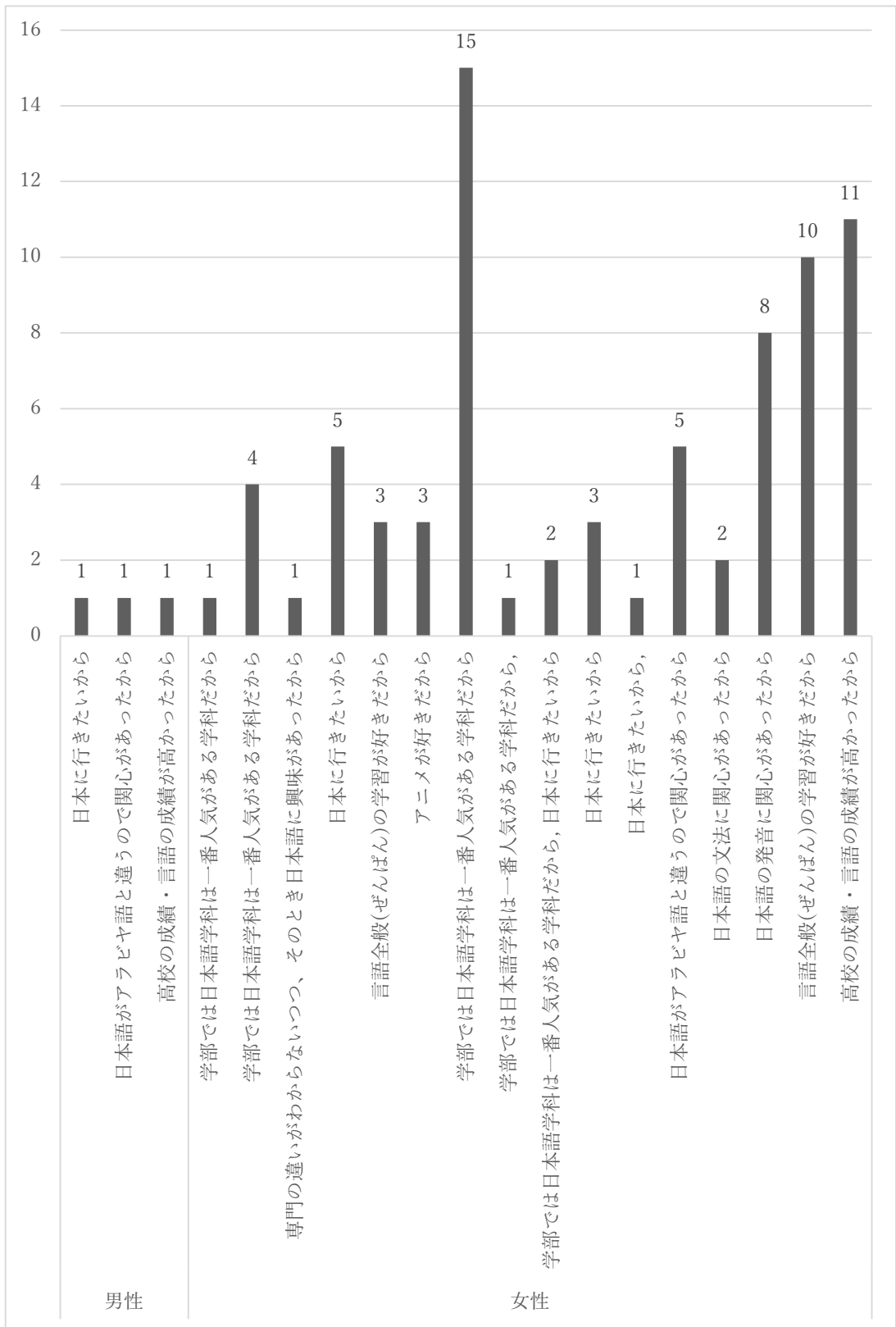


図6 日本語を学習したきっかけ

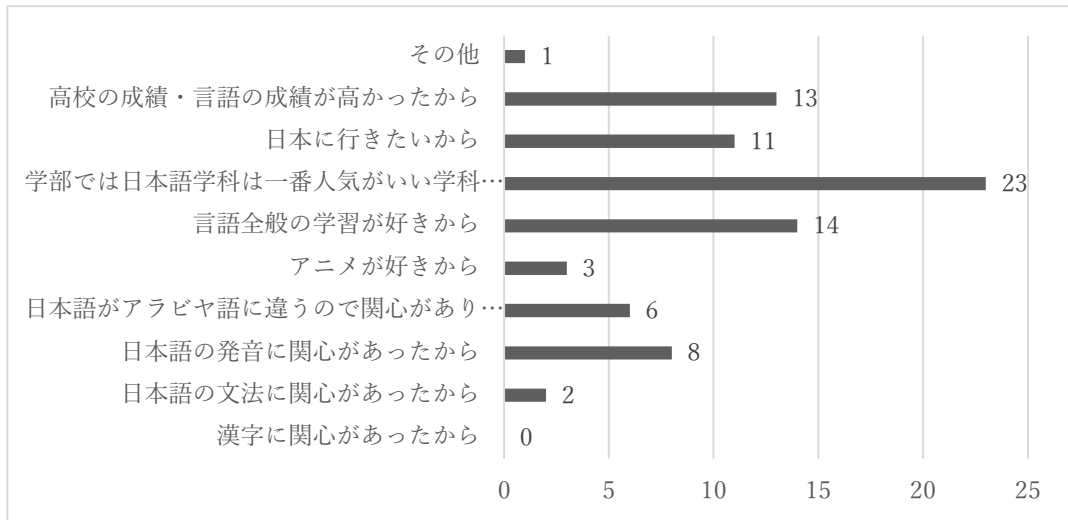


図7 性別 対きっかけ

参考文献

国際交流基金「海外日本語教育機関調査」

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey21.html>

(2023年6月アクセス)

Gardner, R. C & Lambert, W. (1972). *Attitude and motivation second language learning*:
Rowley, MA: Newbry House

岸高延 (2019) 「エジプトにおける日本語学習者の動機づけ — アインシャムス大学における調査報告 —」、『言語表現研究』(35) pp.57-67

—国学院大学大学院博士前期課程—